

理事が語る

「情報システム学会から始まったテレワーク研究」

株式会社ルシーダ
椎葉怜子

昨年5月に理事を拝命した、株式会社ルシーダの椎葉と申します。自己紹介を兼ねて、情報システム学会との関わりについて紹介させて頂きたいと思います。

私は現在、テレワークの専門家としてテレワークの定着促進や課題解決に向けた活動に携わっておりますが、活動の原点はなんと2012年に主査として関わらせて頂いた情報システム学会の「ICT（情報通信技術）活用による女性の働き方研究会」に遡ります。

当時の日本は働き方改革前夜で、出社を大前提とした長時間労働が当たり前でした。その頃、私が代表を務める株式会社ルシーダは「女性の“働く”を応援する」をミッションに掲げ、女性向けキャリアデザイン研修や、男性マネージャー向けの女性活躍支援セミナーを実施していました。しかし、会社で深夜まで働くことを前提とした労働環境で、女性に仕事と子育ての両立、さらにキャリアアップを求めるのは無謀なのではないか、という問題意識を抱くようになりました。

そのような折、経営者として海外の働き方やリモートワークに精通されておられた三和コムテック株式会社の故柿澤晋一郎様と前日本IBM サービス株式会社の伊藤重光様に出会い、今でいうテレワークという働き方があることを教えていただきました。研究会幹事になって下さったお二方のご支援のもと、研究会活動を通じて、当時は珍しかったテレワークを積極的に活用する外資系企業の取り組みや、在宅勤務を活用しながら仕事と子育てを両立する管理職の女性社員の方々と出会ったことで、テレワークがキャリアを断絶しがちな女性の働き方に風穴を開ける突破口になることを確信しました。

その後、テレワーク導入の意思決定権を持つ企業経営者に向けて、「テレワークの段階的な導入で、女性の活用を！」という提言レポートを執筆し、静岡産業大学で開催された情報システム学会の全国大会で研究発表する機会にも恵まれました。研究会発足を後押しし、全面的に支援して下さった故柿澤様、伊藤様をはじめ、メンバーとして様々な知見を提供して下さいました。改めて感謝の意を表したいと思います。

2014年には、情報システム学会でのテレワークの研究がきっかけとなり、日本テレワーク協会の客員研究員に就任しました。以降、働き方改革の流れと軌を一にしてテレワーク関連省庁や東京都のテレワーク普及推進事業に携わって参りました。また、大企業を中心とする働き方改革・テレワーク推進企業の経営者・人事責任者を対象とする研究会の部会長として研究活動を行い、提言やレポートを発表して参りました。2022年6月には、日本テレワ

ーク協会主催「働き方の未来特別研究プロジェクト」の部会長として、2021 年度研究成果レポート「新展開を迎えた働き方改革・テレワーク推進 ～コロナ後を見据えた働き方～」を発表しています。情報システム学会でのテレワーク研究から 10 年の月日が経った今、テレワークは企業の競争力強化に資する働き方として認知され、出社とテレワークを組合せたハイブリッドワークが当たり前の働き方になりつつあります。10 年前の日本の労働環境を思い浮かべると、まさに隔世の感があります。

現在、テレワークは女性のみならず、一般社員、管理職、シニア層、障がいを持つ方など様々な方の働き方に変化をもたらしています。さらに、地方への移住促進など、暮らし方にまで大きな影響を及ぼしているところです。コロナ前は企業主導で進められてきたテレワーク推進ですが、今やひとり一人がウェルビーイングの実現を目指してテレワークを自発的に活用し始めているように感じます。

情報システム学会の理事として、どのような貢献ができるだろうかと考えていたところ、テレワークによる働き方、暮らし方といった人間活動を含む情報システムへの影響は、情報システム学会が提唱する「人間中心の情報システム」のテーマに相通ずるものがあることに気がきました。テレワーク研究のきっかけを作って下さった情報システム学会とのご縁を紡ぎながら、情報システムの観点からもテレワークへの考察を深めていければと考えております。

<参考 URL>

「ICT(情報通信技術)活用による女性の働き方研究会」研究会

https://www.issj.net/kenkyuu/2012_josei/2012_josei.html

テレワークの段階的な導入で、女性の活用を！

https://www.issj.net/kenkyuu/2012_josei/140723_josei_teian.pdf

新展開を迎えた働き方改革・テレワーク推進 ～コロナ後を見据えた働き方～

https://japan-telework.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2022/06/2021hatarakikatanomirai_project_report.pdf